2014年3月期決算
プレゼンテーション資料

2014年4月

大阪ガス株式会社

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

I.　14.3期決算と15.3期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています　：下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。http://www.osakagas.co.jp/company/ir/

「見通し」に関する注意事項　：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記　：全て、基準熱量を45MJ/m^3として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記　：名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

Design Your Energy 夢ある明日を

2

OSAKA GAS

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2014年3月期決算と、2015年3月期の見通しについて、ご説明させていただきます。

14.3期決算のポイントⅠ

対前年比較

■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴うガス販売価格の上昇などにより、 前年比9.6%増収の1兆5,125億円。
連結経常利益	ガス事業における営業費用の減少や電力事業利益の増加などにより、 前年比17.7%増益の1,060億円。 時期ずれ差損は205億円発生(前年の時期ずれ差損は207億円)。
連結当期純利益	米国上流事業で減損損失を計上したことなどから、 前年比20.5%減益の417億円。

■ ガス販売量

家庭用	気水温が前年より高く推移したことなどにより、 前年比3.3%減少の2,198百万m³。
商・公・医療用	前年比0.8%減少の1,528百万m³。
工業用	新規需要開発などにより、 前年比2.5%増加の4,329百万m³。

■ その他

配当	対前年0.5円/株増配を予定(年間9円/株)

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

3

2014年3月期は、増収、経常利益は増益、当期純利益は減益の決算となりました。

連結売上高は、LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格の上昇などにより、前年と比べて9.6%増収の1兆5,125億円となりました。

連結経常利益は、ガス事業で営業費用が減少したことや電力事業利益が増加したことなどにより前年と比べて17.7%増益の1,060億円となりました。

連結当期純利益は、米国上流事業で減損損失を計上したことなどから、前年と比べて20.5%減益の417億円となりました。

ガス販売量について、家庭用は、気水温が前年より高く推移したことなどにより、前年を3.3%下回る21億9,800万m³となりました

商業用・公用・医療用は、ほぼ前年並みの15億2,800万m³となりました。

工業用は、新規需要開発などにより、前年を2.5%上回る43億2,900万m³となりました。

配当につきましては、前年から0.5円増配の年間9円を予定しています。

14.3期決算のポイントⅡ

対見通し比較

■ 概況

連結売上高	ほぼ見通し並みの1兆5,125億円。
連結経常利益	時期ずれ差損は拡大したものの、 主に電力事業や関係会社の利益が増加したことなどから、 見通し比6.0%増益の1,060億円。 時期ずれ差損は205億円発生（見通しの時期ずれ差損は109億円）。
連結当期純利益	株式売却益の計上などにより、見通し比17.5%増益の417億円

■ ガス販売量

家庭用	見通し比0.7%増加の2,198百万m³。
商・公・医療用	気水温影響や省エネルギーが想定ほど進まなかったことなどにより、 見通し比2.8%増加の1,528百万m³。
工業用	見通し比0.5%減少の4,329百万m³。

■ その他

新規事業拡大投資	活性炭事業会社の買収、英国水道事業への投資を行ったほか、 国内パイプライン建設や海外上流開発投資などにより、 投資実行額は計1,428億円。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

4

続きまして、12月に修正しました見通しとの対比でご説明します。

連結売上高はほぼ見通し並みとなりました。

連結経常利益は、ガス事業の時期ずれ差損が約100億円拡大したものの
電力事業や関係会社の利益が増加したことなどから、
見通しと比べて6.0%の増益となりました。

ガス販売量について、家庭用および工業用は、ほぼ見通し並みとなりました。

商業用・公用・医療用は、下期の気水温が想定より低く推移したことや、
お客さまの省エネルギーが想定ほど進まなかったことなどにより
見通しを2.8%上回りました。

新規事業拡大投資につきましては、活性炭事業会社Jacobi Carbonsの買収や、
英国水道事業への投資などを行い、投資実行額は1,428億円となりました。

14.3期ガス販売実績

45MJ/m³		A. 14.3期	B. 13.3期	前年差	前年比	14.3期見通し	見通し比
個別	お客さま数(千件)	7,136	7,086	+50	+0.7%	7,112	+0.3%
	新設工事件数(千件)	102	91	+11	+11.9%	100	+1.9%
	家庭用1戸当り販売量(m³/月)	31.3	32.5	-1.2	-3.7%	31.1	+0.7%
	家庭用	2,198	2,272	-74	-3.3%	2,182	+0.7%
	商・公・医療用	1,528	1,540	-12	-0.8%	1,486	+2.8%
	工業用	4,329	4,222	+107	+2.5%	4,350	-0.5%
	業務用計	5,856	5,761	+95	+1.7%	5,836	+0.3%
	他ガス事業者向け	469	469	+0	+0.1%	462	+1.6%
	(うち大口供給)	(4,988)	(4,894)	(+94)	(+1.9%)	(5,000)	-0.3%
ガス販売量合計(百万m³)		8,524	8,503	+21	+0.2%	8,480	+0.5%
連結ガス販売量		8,554	8,534	+21	+0.2%	8,510	+0.5%

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

5

ただ今ご説明しました、2014年3月期のガス販売実績をまとめておりますので、ご確認下さい。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年並みの85億2,400万m³となりました。

なお、ご参考資料として、33ページに、ガス販売量の月別の推移を用途別に示しておりますので、あわせてご覧ください。

14.3期実績 I

（　）内は連単倍率

連結:億円	A. 14.3期	B. 13.3期	前年差	前年比	14.3期見通し	見通し比
売上高	(1.24) 15,125	(1.24) 13,800	+1,325	+9.6%	15,045	+0.5%
営業利益	(1.64) 993	(1.84) 847	+146	+17.2%	990	+0.4%
経常利益	(1.53) 1,060	(1.63) 901	+159	+17.7%	1,000	+6.0%
当期純利益	(1.67) 417	(1.49) 524	-107	-20.5%	355	+17.5%
SVA	30	186	-156	-83.9%	-27	-

		A. 14.3期	B. 13.3期	前年差	14.3期見通し	見通し差
時期ずれ差損益	億円	-205	-207	+2	-109	-96
原油価格	$/bbl	110.0	113.9	-4.0	109.5	+0.4
為替レート	円/$	100.2	83.1	+17.1	99.5	+0.6
連結子会社数		150	130	+20	---	---

14.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT−投下資本×WACC。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

こちらには、2014年3月期の決算数値をまとめておりますので、ご確認下さい。

14.3期実績 II

連結:億円	A. 14.3末	B. 13.3末	A-B	備考
総資産	16,683	15,668	+1,014	固定資産の増加など
自己資本	7,989	7,478	+511	
有利子負債	5,735	5,401	+333	
在籍人員(人)	21,250	19,870	+1,380	Jacobi Carbons買収など
自己資本比率	47.9%	47.7%	+0.2	
D/E比率	0.72	0.72	-0.00	

	A. 14.3期	B. 13.3期	A-B	備考
設備投資	1,241	1,129	+111	海外上流投資、LNG船建造など
減価償却費	838	828	+9	
フリーキャッシュフロー	1,131	850	+280	棚卸資産の減少など
ROA	2.6%	3.4%	-0.9	
ROE	5.4%	7.3%	-1.9	
EPS(円/株)	20.0	25.2	-5.2	
BPS(円/株)	383.9	359.2	+24.7	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出。

Design Your Energy 夢ある明日を

7

OSAKA GAS

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

自己資本は、利益剰余金の積み上がりに加えて、
為替換算調整勘定が増加したことなどから、
前年を511億円上回る7,989億円となりました。

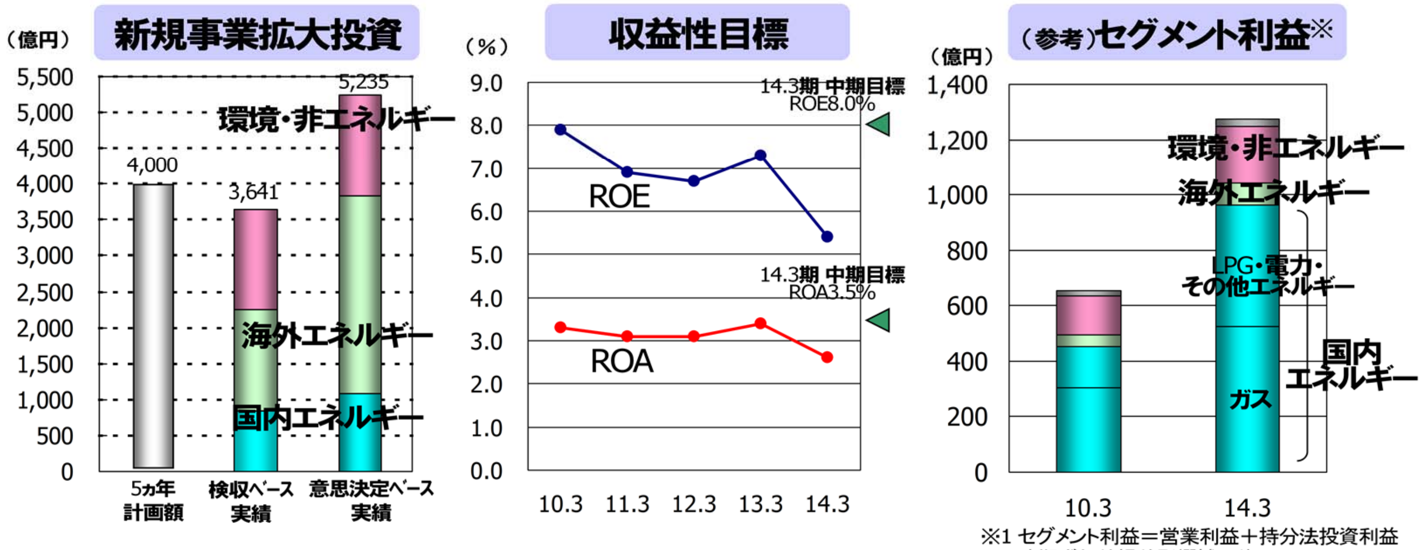
設備投資は、海外上流開発投資やLNG船の建造投資の
増加により、前年を111億円上回る1,241億円となりました。

なお、ROAは、前年を0.9ポイント下回る 2.6%、
ROEは、前年を1.9ポイント下回る 5.4%となりました。

中期計画（10.3期-14.3期）の達成状況

■ 概況

国内エネルギー、海外エネルギー、環境・非エネルギーの各分野で、
将来の成長に向けた取り組みを着実に実施。
海外上流事業で減損損失を計上したことなどにより、ROA・ROEは目標を未達成。



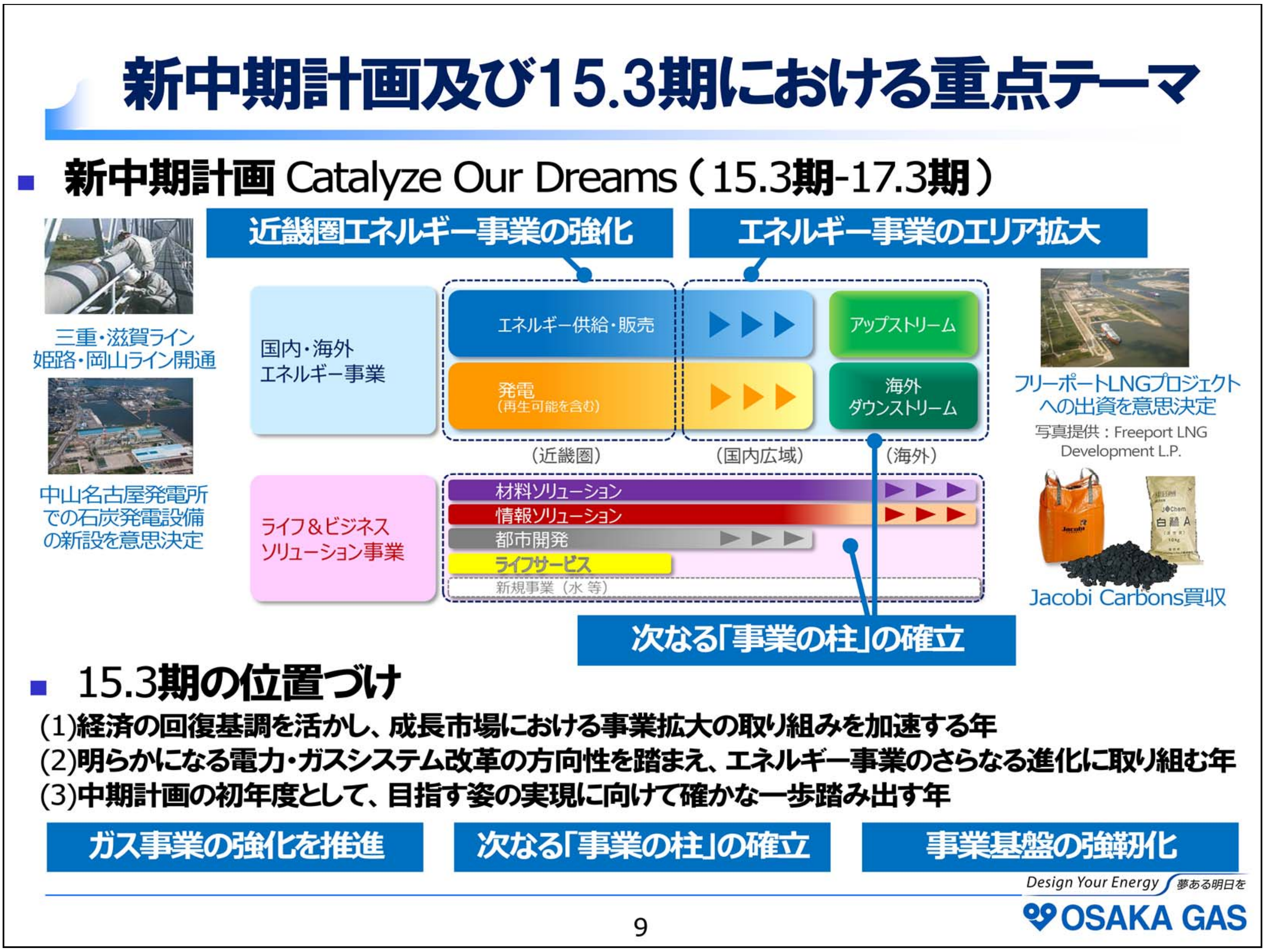
※1 セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益
※2 時期ずれ差損益影響補正後
2009年度：267億円の差益
2013年度：205億円の差損

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

8

2014年3月期は2009年に発表した長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」第1フェーズの最終年でした。
この5年間に、国内エネルギー、海外エネルギー、環境・非エネルギーの各分野で将来の成長に向けた取り組みを着実に実施いたしました。

但し、収益性目標につきましては、
米国上流事業で減損損失を計上したことなどが影響し、
2014年3月期の目標として掲げたROA3.5％、ROE8.0％の水準を下回りました。



次のフェーズとして、先月発表いたしました新中期計画「Catalyze Our Dreams」では、「近畿圏エネルギー事業の強化」「エネルギー事業のエリア拡大」、「次なる『事業の柱』の確立」の3つの重点テーマに取り組んでいくこととしております。

初年度となる2015年3月期は、経済の回復基調を活かし、成長市場における事業拡大の取り組みを加速する年、電力・ガスシステム改革の方向性を踏まえ、エネルギー事業のさらなる進化に取り組む年と位置づけています。

これらを踏まえ、特に、ガス事業の強化推進、次なる「事業の柱」の確立、事業基盤の強靭化 に取り組みます。

15.3期見通しのポイント

■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格やLNG販売価格の上昇などを織り込み、前年比6.1%増収の1兆6,055億円。
連結経常利益	ガス事業の時期ずれ差損が差益に転じる一方で、営業費用の増加や、電力事業および関係会社での減益等を織り込み、前年比5.7%減益の1,000億円。 時期ずれ差益の想定は47億円（前年は時期ずれ差損205億円）。
連結当期純利益	前年比57.0%増益の655億円。

■ ガス販売量

家庭用	平年気温を前提とし、前年比0.8%増加の2,215百万m³。
商・公・医療用	平年気温を前提とすることに加え、お客さまの省エネルギー推進の影響を織り込み、前年比4.4%減少の1,461百万m³。
工業用	前年比0.7%減少の4,296百万m³。 一部IPPの契約満了に伴い、大口ガス供給→自家使用にカウント方法を変更。新規需要開発やお客さま設備の稼働増加を約70百万m3織り込んでおり、実質的には増加。

■ その他

新規事業拡大投資	海外エネルギー事業投資を中心に、1,120億円の投資を計画。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

2015年3月期の具体的な見通しについてご説明いたします。
2015年3月期は、増収、経常利益は減益、当期純利益は増益の見通しです。
連結売上高は、LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格やLNG販売価格の上昇などを織り込み、前年と比べて6.1%増収の1兆6,055億円を見込んでいます。
連結経常利益は、ガス事業の時期ずれ差損が解消し差益に転じる一方で、三重・滋賀ライン、姫路・岡山ラインの開通に伴う減価償却費の増加を織り込んでいるほか、電力事業や関係会社での減益も織り込み、前年と比べて5.7%減益の1,000億円を見込んでいます。

ガス販売量について、家庭用では、平年気温を前提としたことにより、前年を0.8%上回る22億1,500万m³を見込んでいます。
商業用・公用・医療用は、家庭用と同様に平年気温を前提とするとともに、お客さまの省エネルギー推進の影響を織り込み、前年を4.4%下回る14億6,100万m³を見込んでいます。
工業用は、前年を0.7%下回る42億9,600万m³を見込んでいますが、関係会社が行う一部のIPPでの契約満了を受けて、大口ガス供給から自家使用にカウント方法を変更した影響を除けば、実質的には前年を上回ると見込んでいます。

新規事業拡大投資は、引き続き積極的に進めることとしており、1,120億円を計画しています。

15.3期ガス販売見通し

45MJ/m3		A. 15.3期見通し	B. 14.3期実績	A-B	A-B/B(%)
個別	お客さま数(千件)	7,162	7,136	+27	+0.4%
	新設工事件数(千件)	99	102	-3	-3.3%
	家庭用1戸当り販売量(m^3/月)	31.4	31.3	+0.1	+0.4%
	家庭用	2,215	2,198	+17	+0.8%
	商・公・医療用	1,461	1,528	-67	-4.4%
	工業用	4,296	4,329	-32	-0.7%
	業務用計	5,758	5,856	-99	-1.7%
	他ガス事業者向け	479	469	+10	+2.1%
	(うち大口供給)	(4,929)	(4,988)	(-59)	(-1.2%)
ガス販売量合計(百万m^3)		8,452	8,524	-72	-0.8%
連結ガス販売量		8,483	8,554	-72	-0.8%

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

11

2015年3月期のガス販売見通しを、こちらにまとめております。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を0.8%下回る84億5,200万m^3を見込んでいます。

15.3期見通しⅠ

（　）内は連単倍率

連結：億円	A. 15.3期 見通し	B. 14.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.25) 16,055	(1.24) 15,125	+929	+6.1%
営業利益	(1.60) 995	(1.64) 993	+1	+0.1%
経常利益	(1.48) 1,000	(1.53) 1,060	-60	-5.7%
当期純利益	(1.35) 655	(1.67) 417	+237	+57.0%
SVA	329	30	+299	+998.3%

時期ずれ差損益	億円	47	-205	+252
原油価格	$/bbl	110	110.0	+0.0
為替レート	円/$	105	100.2	+4.8

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT－投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

12

　こちらには、収支等の見通し数値をまとめておりますのでご確認下さい。
前提となる原油価格は、1バレル110ドル、
前提となる為替レートは、1ドル105円としています。

15.3期見通し II

連結:億円	A. 15.3末見通し	B. 14.3末実績	A-B
総資産	17,814	16,683	+1,130
自己資本	8,242	7,989	+252
有利子負債	6,604	5,735	+868
在籍人員(人)	21,448	21,250	+198
自己資本比率	46.3%	47.9%	-1.6
D/E比率	0.80	0.72	+0.08

	A. 15.3期見通し	B. 14.3期実績	A-B
設備投資	1,280	1,241	+39
減価償却費	853	838	+15
フリーキャッシュフロー	898	1,131	-233
ROA	3.8%	2.6%	+1.2
ROE	8.2%	5.4%	+2.8
EPS(円/株)	31.5	20.0	+11.4
BPS(円/株)	395.9	383.9	+12.0

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出。

Design Your Energy 夢ある明日を

13

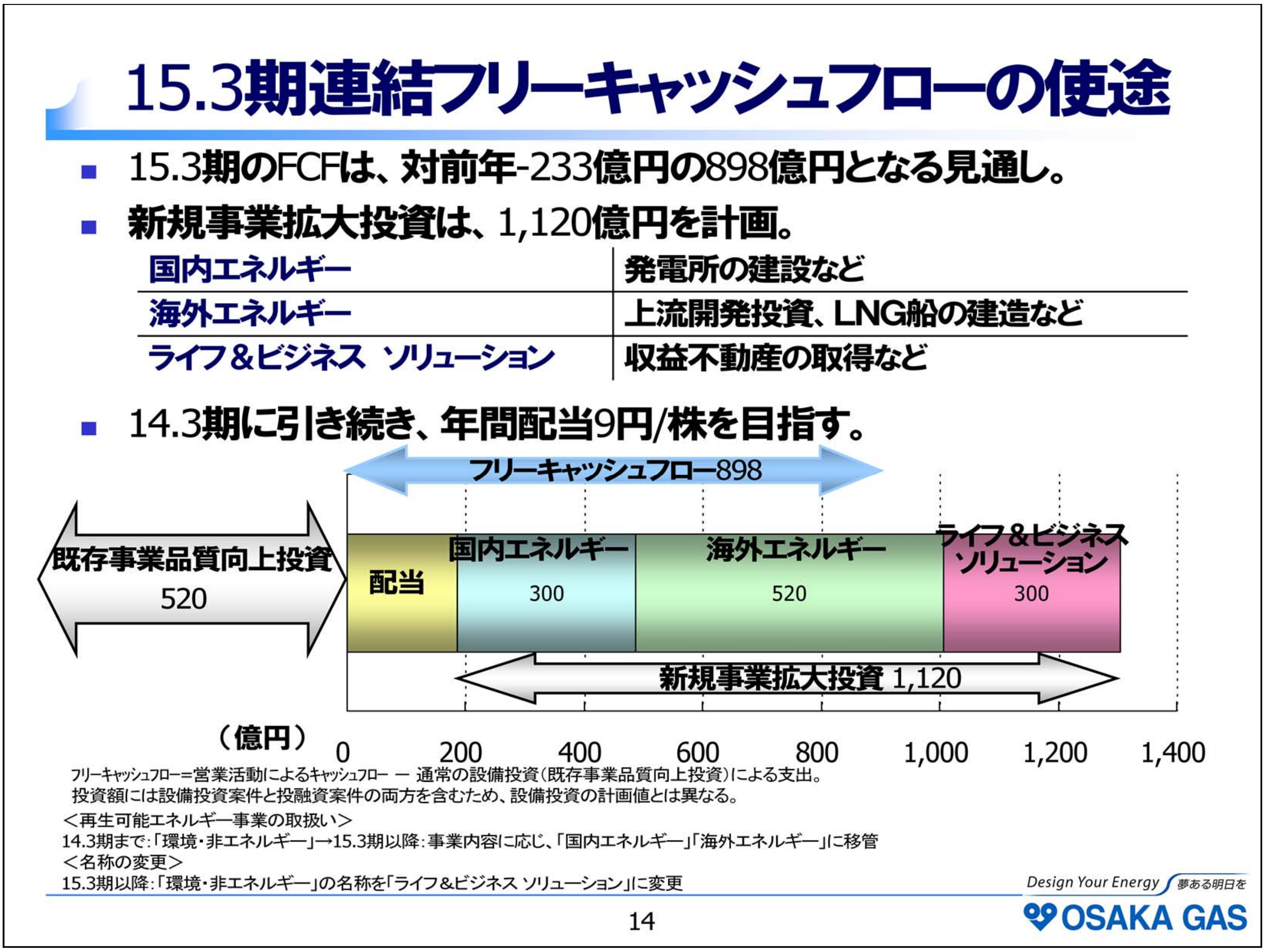
OSAKA GAS

資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

新規事業拡大投資などの資金需要に対応するため、
有利子負債は、前年を868億円上回る6,604億円となる見通しです。

設備投資は、発電所の建設や、
海外上流案件の開発を進めることなどから、
前年並みの1,280億円を見込んでいます。

ROA・ROEにつきましては、それぞれ前年を上回る3.8%、8.2%を
見込んでいます。



最後に、フリーキャッシュフローの使途について、ご説明します。
2015年3月期のフリーキャッシュフローは、898億円となる見通しです。
総額1,120億円の新規事業拡大投資の実行を見込んでおり、
これをフリーキャッシュフローと借入金で賄う予定です。

新規事業拡大投資については、
半分弱を海外エネルギー事業への投資に充てる予定です。
既に参画を意思決定している、海外上流案件の開発投資や
LNG船の建造投資を中心に計画しています。

このほか、国内エネルギー事業では、
中山名古屋発電所での石炭発電設備の新設を進めるほか、
ライフ＆ビジネス ソリューション事業では、収益不動産の取得などを進めます。

なお、2015年3月期の配当につきましては、前年に引き続き、
1株につき年間9円としたいと考えています。

以上で、2014年3月期決算と、2015年3月期の見通しについての
ご説明を終わらせていただきます。

Ⅱ. 参考資料

14.3期トピックス Ⅰ

三重・滋賀ライン、姫路・岡山ラインの開通

三重・滋賀ライン（中部電力様との共同建設）概要

区間	三重県四日市市（中部電力様四日市火力発電所） ～滋賀県犬上郡多賀町（当社・多賀ガバナステーション）
延長/仕様	約60km / 設計圧力7MPa、口径600mm
開通	2014年1月30日
中部電力様からもガスを受けることが可能となり、供給信頼度の向上が図られる。	

姫路・岡山ライン概要

区間	兵庫県姫路市～岡山県岡山市
延長/仕様	約86km / 設計圧力7MPa、口径600mm
開通	2014年3月27日
姫路-岡山間のお客さまに最適なエネルギーソリューションを提供し、ガスの安定的な供給に貢献する。2016年度以降、関西電力様の相生発電所1、3号機向けに天然ガスを供給することに合意。	

14.3期トピックスⅡ

■ 名古屋発電所の隣接地における石炭火力発電所の新設（3月発表）

- 中山名古屋共同発電*が、操業中の名古屋発電所（発電容量14.9万kW、石炭火力）の隣接地に、バイオマス混焼石炭火力発電所を新設することを決定。
  *株主構成：ガスアンドパワー（当社100%子会社）95%、中山製鋼所様5%

- 計画概要

発電容量	11万kW
燃料	石炭、木質系バイオマス、灯油（助燃用）
運用開始	2016年度下期（予定）
予定地	中山名古屋共同発電 名古屋発電所 隣接地（愛知県知多郡武豊町）

- これまで取り組んできたガス火力・再生可能エネルギーなどに加えて、新たな石炭火力発電所を建設し、電源規模を拡大することで、電力事業の一層の強化を図る。

発電所位置図

14.3期トピックスⅢ

■ 米国フリーポートLNGプロジェクトへの出資を決定（2月発表）

- **プロジェクト概要**

所在地	米国テキサス州フリーポート市
稼働開始	2018年（予定）
液化設備能力	約440万トン／年×3系列

- 当社は、液化加工契約を締結している第1系列の建設主体であるフリーポート子会社の持分を、同系列の最終投資決定を経て25%取得し、建設期間を通して約6億米ドル（約600億円）を出資する予定。

既設LNG受入基地

輸出基地完成イメージ図

14.3期の売上高差異（対前年）

13.3期 → 14.3期 （差異）

13,800億円　15,125億円 (+1,325億円)

- 個別：+1,126億円
  - ガス売上高　+730億円
    - ・原料費調整影響　+762億円
    - ・数量差等　−32億円
  - その他売上高　+396億円
    - ・LNG販売売上　+250億円
    - ・電力売上　+95億円
    - ・器具販売売上　+32億円
- 連結−個別：+198億円
  - 不動産事業　+100億円
  - 国内IPP事業　+73億円
  - LPG事業　+59億円

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

14.3期の経常利益差異（対前年）

＋－の符号は、利益影響を表す。

13.3期 → 14.3期 （差異）

901億円　1,060億円（+159億円）

- **個別：+138億円**
  - ガス粗利　-47億円
    - ・時期ずれ影響　+2億円
    - ・数量差等　-50億円
  - 費用減少　+124億円
    - ・諸経費減　+70億円
    - ・労務費減　+40億円
  - その他事業利益　+70億円
    - ・電力利益　+39億円
    - ・器具販売差益　+19億円
  - 営業外収支　-9 億円
- **連結－個別：+21億円**
  - 出光スノーレ（持分法適用）　+19億円
  - 不動産事業　+13億円
  - 米国IPP事業　+11億円
  - 米国上流事業　-34億円

14.3期の売上高差異(対見通し)

14.3期見通し → 14.3期実績 （差異）

15,045億円 15,125億円 (+80億円)

- 個別:+283億円
  - ガス売上高 +41億円
    - ・原料費調整影響 −28億円
    - ・数量差等 +69億円
  - その他売上高 +242億円
    - ・附帯事業売上（LNG販売等） +139億円
    - ・器具販売売上 +82億円
- 連結−個別:−202億円
  - LPG事業 −37億円
  - 材料ソリューション事業 −15億円

14.3期の経常利益差異(対見通し)

14.3期 見通し	→	14.3期 実績	(差異)
1,000億円		1,060億円	(+60億円)

＋－の符号は、利益影響を表す。

- 個別:+41億円
  - ガス粗利 －12億円
    - ・時期ずれ影響 －96億円
    - ・数量差等 +83億円
  - 費用増加 －19億円
    - ・諸経費増 －11億円
  - その他事業利益 +50億円
    - ・附帯事業利益(電力等) +22億円
    - ・器具販売差益 +16億円
  - 営業外収支 +24億円
- 連結－個別:+18億円
  - 出光スノーレ(持分法適用) +9億円
  - 米国IPP事業 +9億円

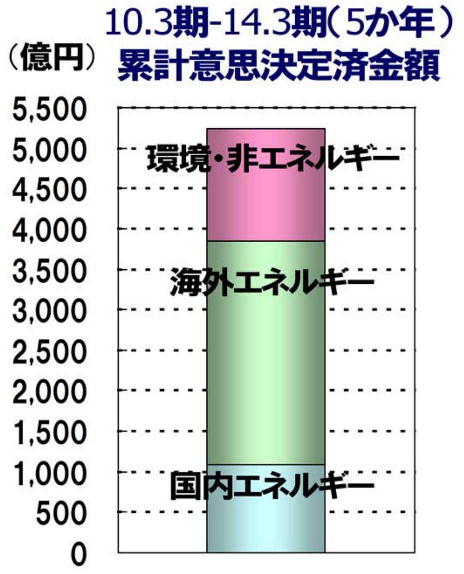
14.3期セグメント別実績

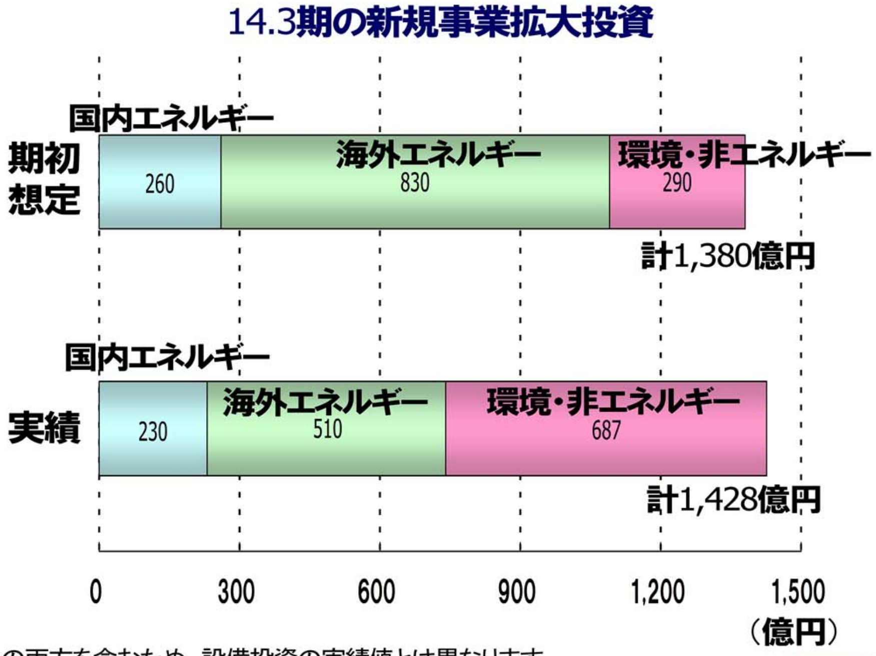
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期	13.3期	14.3期	13.3期	
ガス	11,195	10,385	320	233	売上:ガス販売単価の上昇 利益:営業費用の減少
LPG・電力・その他エネルギー	2,579	2,155	438	382	売上:LNG販売、電力売上増など 利益:電力利益増など 電力事業利益(*):13.3期252億円 14.3期291億円
海外エネルギー	133	107	77	76	利益:北海油田、米国IPP利益増、 米国上流事業利益減
環境・非エネルギー	1,996	1,856	208	190	売上:不動産事業売上増など 利益:不動産事業利益増など
消去又は全社	-779	-704	27	27	
連結	15,125	13,800	1,072	911	

(*) セグメント利益=営業利益+持分法投資利益
(*) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

14.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期-14.3期（5か年）の累計意思決定済金額は5,235億円（対計画131%）。
- 14.3期の投資実行額は1,428億円。





投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

15.3期売上高見通しの前年差異

14.3期実績→15.3期見通し（差異）

15,125億円　16,055億円（+929億円）

- 個別：+646億円
  - ガス売上高　+475億円
    - ・原料費調整影響　+581億円
    - ・数量差等　−104億円
  - その他売上高　+170億円
    - ・附帯事業売上（LNG販売、電力等）　+242億円
    - ・器具販売売上　−47億円
- 連結−個別：+282億円
  - Jacobi Carbons※　+215億円
  - LPG事業　+60億円

※2014年1月に買収した活性炭事業会社

15.3期経常利益見通しの前年差異

＋－の符号は、利益影響を表す。

14.3期実績 → 15.3期見通し（差異）

1,060億円　　1,000億円（－60億円）

個別：－16億円

ガス粗利　+177億円
- 時期ずれ影響　+252億円
- 数量差等　－75億円

費用増加　－104億円
- 減価償却費増　－56億円
- 諸経費増　－39億円

その他事業利益　－61億円
- 附帯事業差益（電力等）　－35億円
- 器具販売差益　－13億円

営業外収支　－29億円

連結－個別：－43億円

- Jacobi Carbons※　－13億円
- 米国IPP事業　－12億円
- OGIT（LNG船）　－11億円

※2014年1月に買収した活性炭事業会社。
のれん償却費、棚卸資産のステップアップ（時価評価に伴う増加）による一時的費用増等を含めた連結利益への影響額を記載

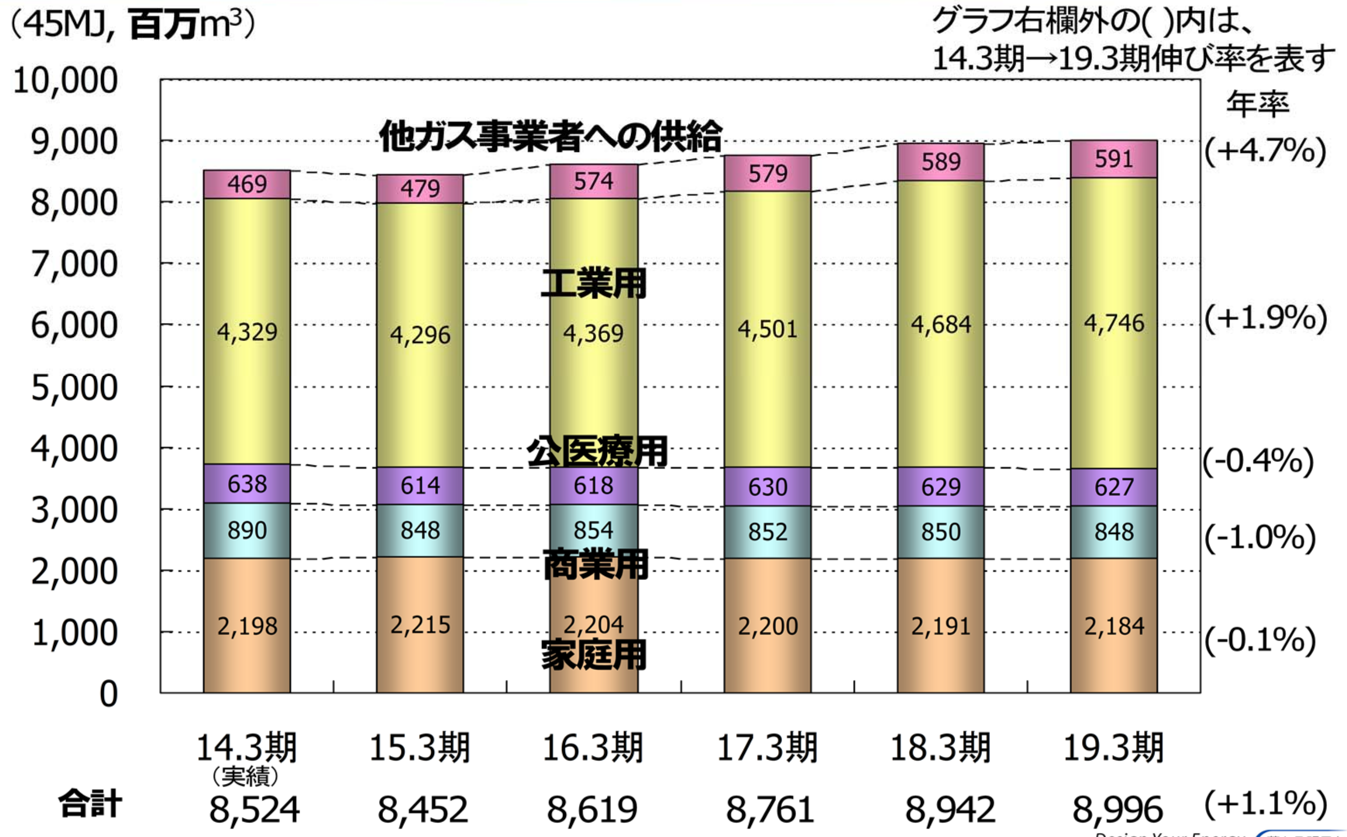
15.3期セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	15.3期見通し	14.3期実績(**)	15.3期見通し	14.3期実績(**)	
ガス	11,485	11,195	380	320	売上:ガス販売単価の上昇 利益:時期ずれ差損の解消
LPG・電力・その他エネルギー	2,965	2,610	405	453	売上:LNG・LPG・電力売上増など 利益:電力利益減など
海外エネルギー	165	133	80	82	
ライフ&ビジネス ソリューション	2,210	1,965	170	188	売上・利益:Jacobi Carbons 新規連結による影響など
消去又は全社	-770	-779	20	27	
連結	16,055	15,125	1,055	1,072	

＜再生可能エネルギー事業の取扱い＞
14.3期まで:「環境・非エネルギーセグメント」→15.3期以降:事業内容に応じ、「LPG・電力・その他エネルギーセグメント」「海外エネルギーセグメント」に移管
＜セグメント名称の変更＞
15.3期以降:「環境・非エネルギーセグメント」の名称を「ライフ&ビジネス ソリューションセグメント」に変更

(*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益、(**)14.3期実績を上記新基準に組み替えた暫定値

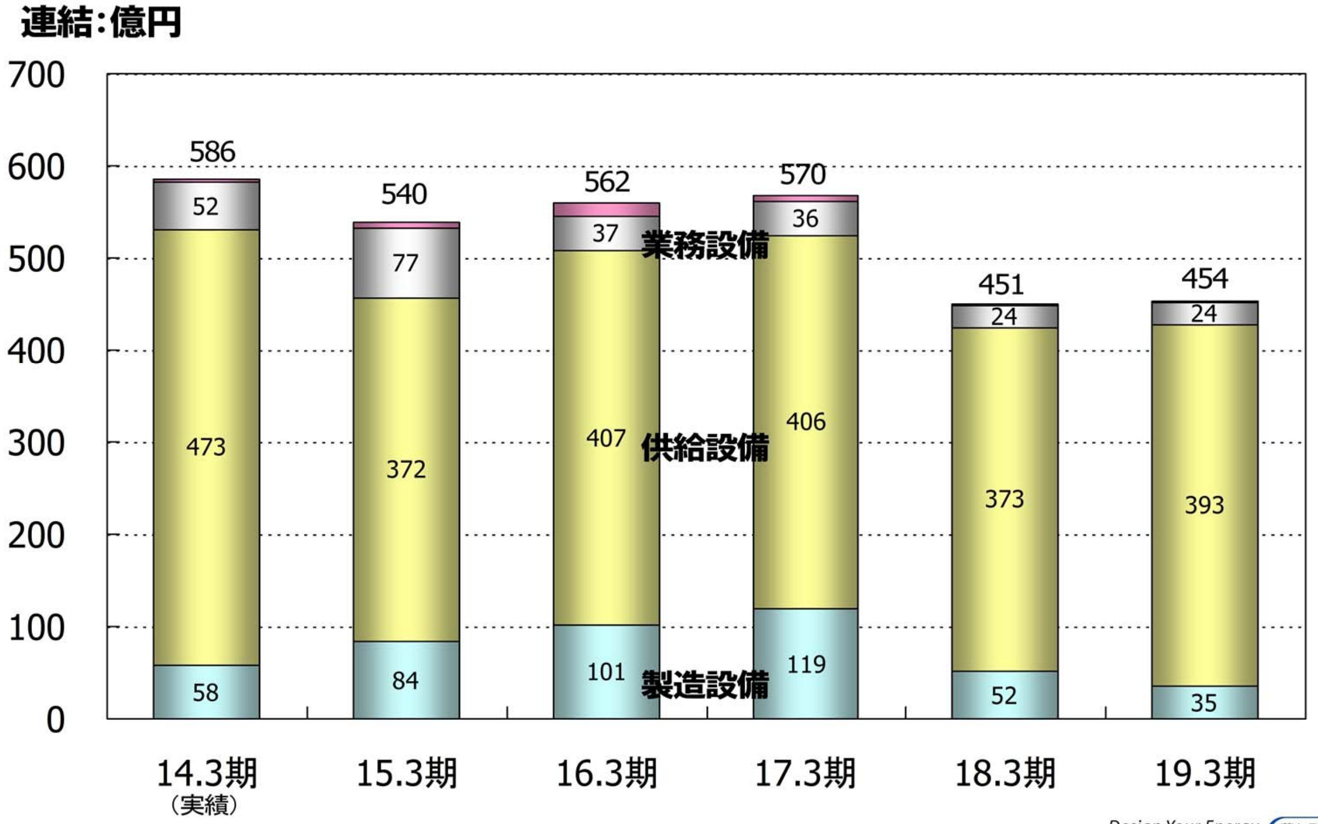
個別ガス販売量の中期見通し



Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

個別設備投資の中期見通し



Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

家庭用ガス販売

14.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.5%	
気温影響	- 3.0%	年間平均気温17.1度（前期16.7度）
その他	- 0.7%	
合計	- 3.3%	

15.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、気温が前年より低めに推移すると想定、前年比+0.8%、17百万m^3増の2,215百万m^3を見込む。

商・公・医療用ガス販売

14.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+1.4%	
気温日数影響	+0.2%	
その他	- 2.3%	お客さま設備の稼働増減、省エネルギー推進など
合計	- 0.8%	

15.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さまの省エネルギー推進の影響などを織り込み、前年比-4.4%、67百万m^3減の1,461百万m^3を見込む。

工業用ガス販売

14.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+2.3%	他燃料からの転換など
稼動増減等	+0.2%	
合計	+2.5%	

主な業種別実績　（45MJ, 百万m^3）

	販売量	販売量構成比	対前期比
機械	349	8.1%	92.8%
金属	1,015	23.5%	100.5%
ガラス	337	7.8%	100.4%
化学	1,228	28.4%	105.3%
食品	518	12.0%	99.7%

15.3期見通し

- 前年比-0.7%、32百万m^3減の4,296百万m^3を見込む。一部IPPの契約満了に伴い、大口ガス供給→自家使用にカウント方法を変更。新規需要開発やお客さま設備の稼働増加により実質的には増加。

14.3期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
家庭用		89.5	103.7	90.6	92.9	92.8	104.1	104.6	91.9	91.0	96.5	102.5	101.6	96.7
商・公・医療用		91.9	98.2	107.5	103.7	101.1	96.8	97.3	103.1	94.4	96.3	104.0	102.1	99.2
工業用		100.6	97.6	97.3	103.0	99.7	104.6	105.0	102.7	103.1	107.4	104.6	104.8	102.5
業種別	機械	87.1	87.4	77.9	89.1	85.8	89.9	95.4	98.0	99.7	99.1	102.0	104.5	92.8
	金属	97.7	91.1	87.7	92.9	90.6	99.5	106.5	110.0	108.7	110.6	107.8	107.4	100.5
	ガラス	100.9	102.0	102.0	107.8	101.4	98.3	105.5	98.5	94.2	98.9	98.6	96.6	100.4
	化学	110.4	103.5	104.0	107.0	100.9	110.4	112.1	104.9	98.9	102.8	105.9	104.1	105.3
	食品	101.0	96.0	98.7	100.2	95.3	99.5	99.4	99.8	100.7	100.5	103.2	102.4	99.7
卸		109.2	94.1	86.9	103.0	94.9	106.9	95.5	102.2	95.7	104.5	99.6	107.0	100.1
計		95.9	99.2	96.9	101.5	98.9	102.5	102.7	99.9	97.4	100.9	103.3	103.3	100.2

年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
  - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- **原油価格**
  - LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格1$/bblの変化に対して、15.3期の経常利益は12億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
  - LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート1円/$の変化に対して、15.3期の経常利益は14億円変動する可能性がある。
- **原料費**
  - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
- **金利**
  - 金利1%の変動に対して、15.3期の連結営業外費用が年間7億円変動する可能性がある。